

授 業 概 要

分 野	専門分野 I	科目名	キャリア発達論	担当講師	和田美穂
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>自己の価値観を知り、他者の価値観などの多様性を理解し、看護専門職としての倫理的感受性の基礎を養う。また、倫理原則および看護実践上の倫理的概念を理解し、看護実践において生じやすい倫理的問題とその問題へのアプローチ方法について理解をする。また、キャリア形成に必要な看護研究の概要を学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
2	1. キャリアとは何か、キャリア発達の要素について述べるができる	1) キャリア発達とは	(1) キャリアについて (2) 自律性とは、専門職とは (3) キャリア・デザイン (4) キャリア発達の要素 —看護職の職務継続意思を支える要素意欲・自信・自律性・問題意識・探究心	講義 グループワーク	
6	2. 患者の権利、人権擁護など看護職に求められる倫理に関する歴史的事柄及び法律等が説明できる	1) 倫理 2) 生命倫理 3) 人権と権利、義務	(1) 倫理の基本的な考え方 (2) 生命倫理 ・原則、規則 ・インフォームド・コンセント ・守秘義務、個人情報保護 ・生殖、死、先端医療と制度 (3) 倫理的・文化的多様性と価値の対立 (4) 日本国憲法第 25 条 (5) 世界人権宣言(1948 年) (6) 患者の権利に関するリスボン宣言 (7) 権利擁護モデル・価値の決定モデル・人として尊重するモデル	講義 グループワーク	
8	3. 看護者の倫理原則と看護の役割、倫理的責任、法的責任について説明できる	1) 看護の定義 2) 看護の業務 3) 看護倫理	(1) 看護倫理の歴史 (2) 自律・善行と無害・正義・誠実と忠誠の原則 (3) 倫理的概念 アドボカシー・協力・ケアリング (4) ICN 倫理綱領、日本看護協会看護職の倫理綱領 (5) 保健師助産師看護師法と倫理行為：品位・守秘・名称の使用 (6) 看護業務	講義	
8	4. 看護実践における倫理的問題についてアプローチ法を用いて分析できる	1) 倫理的ジレンマ 2) 倫理問題へのアプローチ	(1) 看護実践における倫理的問題の特徴 (2) 倫理的ジレンマ (3) 倫理的問題へのアプローチ アプローチ法：Jonsen らの症例検討シート、トプク&トプクの意味決定のための 10 ステップモデル、サ・フイの倫理実践における倫理的分析と意思決定のためのモ	講義 グループワーク	

授 業 概 要

分 野	専門分野 I	科目名	診療の補助技術	担当講師	杉垣 ひとみ 谷口 留充
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>現代の医療は刻々と変化し、検査内容も治療方法もより高度化している。正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。しかし、検査・治療・処置には「痛み」が伴うことが多い。したがって、「診療の補助」における看護の役割は正確に検体を採取すること、与薬・輸血の実施、様々な処置の介助だけでなく、身体侵襲に伴う苦痛を最小限にすることである。これらのことをふまえ本科目では、正確さと対象の安全・安楽が同時に要求される検査・治療に伴う看護技術の習得をねらうものである。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
8	1. 検査・診察を受ける対象者への理解と検査・診察における看護師の役割が理解できる 2. 検体採取方法が理解できる	1) 検査の意義 2) 検査を受ける対象 3) 検査における看護師の役割 1) 生体検査 2) 検体検査	(1) 診療における検査の位置づけ (2) 検査 - 診断プロセスと対象者の心理 (3) 看護師の役割 ①正確な検査結果を得る ②検査に伴う危険や苦痛を最小限にする (4) 消化管造影・超音波検査時の看護 (5) MRI・内視鏡・心電図・肺機能検査の介助 (6) 尿・便・喀痰の検査 (7) 穿刺法の介助(腰椎・胸椎・腹腔・骨髄)	講義 機器見学	
2	(1) 血液検査の為に血液採取について留意点を述べる事ができる	1) 血液検査の種類と目的 2) 採血の準備 3) 採血に伴う事故防止	(1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 末梢血管からの血糖測定 (1) 注射器・注射針の種類とその構造、取り扱い方 - 清潔と安全への留意 (2) 採血部位の選択 (1) 消毒方法・穿刺角度と注射器の固定 (2) 血液吸引時の注意 (3) 神経障害・皮下出血・動脈穿刺・患者誤認の予防	講義演習 シュレーター 使用	
4	(2) 静脈血採血が実施できる	1) 静脈血採血の実際	(1) 注射器による方法 (2) 真空採血管による方法	演習 シュレーター 使用	
2	3. 与薬の意義と目的と看護師の役割が理解できる	1) 与薬の基礎知識 2) 看護師の役割	(1) 与薬の基礎知識 ①薬物療法・与薬の定義 ②与薬を受ける患者の特徴 ③経口的薬物の吸収・排泄経路 ④剤形の種類、服用時間と薬の内容 ⑤薬理作用に影響する因子 (2) 正しい与薬・与薬の原則 (3) 医薬品の規定・薬剤の管理 - 毒薬・劇薬・麻薬	講義 講義	

2	4. 与薬の方法が理解でき、正確に実施できる	1) 経口与薬 2) 非経口薬	(1) 経口与薬の特徴/援助方法と留意点 (2) 吸入薬の特徴と吸入の援助方法と留意点 (3) 点眼・点耳・点鼻薬の特徴と留意点 (4) 経皮的与薬の特徴と援助方法と留意点 (5) 坐薬の特徴と直腸内与薬の援助方法	講義 グループ ワーク
4		3) 注射法 ①皮下注射 ②筋肉内注射 ③皮内注射	(1) 注射法/注射法の目的と種類 (2) アンプルとバイアルの構造 (3) 皮下注射の適応・準備・注射部位の選定と方法 (4) 筋肉内注射の適応・準備・注射部位の選定と方法 (5) 皮内注射の部位の選定と方法 (6) 「注射」の実際－実施の手順 (7) 薬剤準備①「アンプルからの吸い上げ」	講義 演習
4		4) 静脈内注射法 ①ワンショット法 ②点滴静脈内注射法 ③中心静脈カテーテル留置	(1) ワンショットの静脈内注射の適応・リスク・方法 (2) 点滴静脈内注射の適応・リスク・方法 (3) 点滴速度の調整/輸液ポンプ・シリンジポンプ (4) 側管法とピギーバックの適応・リスク (5) 中心静脈カテーテル留置の適応・リスク (6) 輸液時の管理－援助の実際 (7) 薬剤の準備②「バイアルからの吸い上げ」「ミッシング・プライミング」	講義 演習
2		5) 輸血管理の方法・留意点	(1) 輸血管理 ① 輸血用血液製剤 ② 輸血の目的・適応・副作用 ③ 援助の実際； －輸血の説明と同意 －輸血の方法	講義
2		試験	筆記試験（検査時の看護と与薬の看護）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術II 医学書院 村田 満 他編 看護活かす検査値の読み方・考え方 第2版 総合医学社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社			
参考文献	佐藤久美 他監修 看護技術が見える vol② 臨床看護技術 メディックメディア 本庄恵子 他監修 写真でわかる臨床看護術① 注射・検査に関する看護技術を中心に！インターメディカ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学 学研メディカル秀潤社			
評価方法	筆記試験、課題レポート・授業の取り組み状況			